

花実の森 活動報告(2025 年 7 月)

第161号

活動日 2025 年 7 月 19 日(土)		時間 8:30~12:30	天候 (晴)	記録者 (菅田)
参加者氏名 応募数12家族 38名 内子ども17名	<u>【スタッフ】</u> 里山花実の森：田路、樋口、菅田、中原、南木、塩ノ谷、橋野、伊牟田 本部：辻本、片山、南木、小山、森下、能、山本 他 計10名 救急ボランティア：2名 神戸常磐大学ボランティア：5名			
今回実施した 内容	親子カブトムシ生育観察会(2025 年第 2 回 成虫探し) 親子自然環境体験型環境学習として企画し、(公財)こうべ市民福祉振興協会の協力を得て実施した 2025 年度『親子カブトムシ生育観察会』。年間を通して里山に棲むカブトムシの生育観察をしながら、里山を知り学ぶイベント。 今回は、今年度の 2 回目「夏の里山に育つカブトムシ成虫探し」。 後半では、昨年の秋に落ちたコナラのドングリから芽を出し育ってきた苗木を、大きなポットに移植する作業をしてもらった。林内への移植は来年秋の予定。			
写真記録				
				
受付、日よけシートの設置など準備完了！		挨拶と今日のイベント内容の説明などを行い、カブトムシ観察会が始まる。		
				
里山の話やここに棲むカブトムシの一生の話をレクチャー。里山への理解を深めてもらう。				
		まずは全員で里山花実の森の散策道を登り林内のカブトムシ生育場所へ案内。		
				



ここに昨年9月に卵から生まれた1齢幼虫が2齢3齢と脱皮し、12月から3月までの冬眠を経て、6月に蛹室でさなぎになりやっと成虫に育ったカブトムシの親が生育しているところです。



さあ 優しく探してあげてください。春の幼虫観察時点では50匹くらいの3齢幼虫が見つかったところです。



今年の見つかり具合がおかしい。なかなか見つからない。やっと10匹足らずの見つかり方に“なんで〜？”と首をかしげることしきり。



終わってみれば家族数には数匹足らない。過去10年の中でこんなことは初めてのことに我々もショックが大きい。原因は別途検証するとして「残念ながら今回は初めてくじ引きで渡しますが、外れた子どもたちには近日中に確保し、必ず渡す」ことを説明して持ち帰ってもらうこととした。我々も本当に辛かった。



後半では、小さなポットに育った去年のドングリの苗木を大きなポットに植え替えてもらう。
ドングリの根と芽はどこから出てくるのかな？

「根はここから、芽はここからだよ」と思う場所を書いてみてほしいなと説明すると、いろいろな表現で絵をかいてくれた。



【正解】は、このようにドングリの頭のとっぺんから下に向って根が先に出て、同じ場所から新芽が上に向かって出てくる。さて 正解した子どもはいたかな。



昨年 10 月に拾ったコナラのドングりを家で育ててきた苗木。これを移植してもらった。



S サイズのポットから、LL サイズのポットへ移植。用土は“里山の腐葉土に市販の用土”を混ぜたもの。「しっかり押さえて水分もたっぷり与えてくださいよ。」移植された苗木は、しばらく里山花実の森の林内木陰で育て、来年 2026 年の秋のイベントで地植え移植をしてもらう予定。



くじ引きで当たった子どもたちには、飼育ケースに入れて手渡す。シッカリ育てて観察するんだよ。



昨年は、成虫探しのイベント翌日に地ならしをしていて、そこで卵が産まれていたり、すでに孵化していた1齢幼虫が見つかった経験から、今回も試みてみたが見つからず。この差も我々の少ないノウハウからは原因がつかめない。なかなか奥が深いカブトムシの生態にいまさらながら感心する。

昨年のイベント終了後の生育場所から見つかった新生卵とすでに孵化していた1齢幼虫。この時は、卵：15個、1齢幼虫：10匹くらいが見つかった。



- 今回のカブトムシ成虫個体数の激減現象に対し、我々としては今回の減少をしっかりと受け止め、さらなるノウハウを蓄積すべく、新たな気持ちでしっかり検証していかねばならないようだ。
- ◎観察会の時期・内容に問題ないか？特に5月初旬の3齢幼虫観察会に問題ないか？（時期や方法）
- ◎さなぎから成虫の期間における“生育場所の囲いに問題ありや？どう改善すべきか？
- ◎イベント直前の成虫生育状況、個体数の確認や、成虫隔離（確保）なども考えるか？募集時期や募集家族数にも影響。
- ◎産卵場所づくりの時期・手順・内容の見直しが必要か？